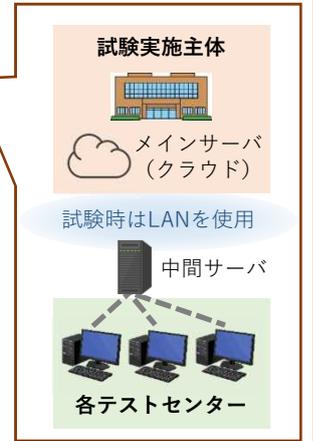


インドの国家試験の場合（一例）



試験場	テストセンター ・試験場数：約270か所(うち国外4か所) ・立地：インド国内の全エリアの受験者が12時間以内の移動でアクセスできるよう配置
実施方式	LAN方式
受験者数	約86万人
受験料	約1,200～13,000円 ※出願者のカテゴリー、会場によって異なる
試験日時	2月上旬の4日間、8つのスロットで実施(各日午前・午後の計2回)
試験問題	・全部で24科目 ・各科目とも「一般的な能力」と「専門分野」の2分野から構成(全65問) ・出題形式：テキスト、画像(グラフ等)、数式 ・解答方法：多肢選択又は数値入力



ハードウェア（パソコンやネットワーク等）の整備

- ・テストセンターは「直営」と「非直営」の2種類。直営会場では建物に備わっているLAN環境を利用。非直営会場では、一時的に借用した会場にLAN環境を構築し、試験後に解体（元の状態に戻す）。
- ・CBT用途に開発されたOSが搭載されている、14インチ程度のディスプレイとウェブカメラが備えられたデスクトップ型のパソコンを使用。

トラブルへの対応

- ・以下のスタッフを配置。

会場管理者（1名/テストセンター）	会場管理責任者。試験会場レベルの全ての問題を管理。
ネットワーク管理者（2名/テストセンター）	会場のハードウェア（パソコンやネットワーク等）の正常動作について責任を持つ。
IT管理者（1名/250受験者端末）	

- ・トラブル時に備え、予備電源、セカンダリーサーバ、モバイルネットワーク、予備端末等を準備。
- ・予定どおり日時・場所での試験実施が困難となった場合は、予備日に実施。

※99.7%はトラブルなく実施されてきた。

身体検査のイメージ



不正防止策

- ・以下のスタッフを配置。

試験監督者（1人/20受験者）	受験者への案内・指示，試験中の監督等。
サポートスタッフ（1人/75受験者）	試験監督者らスタッフのサポート，受験者の案内・誘導。
セキュリティ管理者（1人/30受験者）	受験者入場時に顔写真・指紋画像の取得，再入場時の照合作業。
身体検査担当者（1人/80受験者，性別ごと）	身体検査を実施して携帯電話など不正な持込み等がないか確認。

- ・機器を使用した不正防止策も講じられている。

(例)試験中にウェブカメラで受験者の顔写真を撮影し、顔認証により出願時の顔写真と比較。監視カメラによる監視。

監視カメラによる監視イメージ



障害等のある受験者への配慮

- ・視覚障害のある受験者の場合、追加費用でスクライブ（筆記者）サービスを提供。
- ・車椅子を使用する受験者は、車椅子で移動・利用可能なトイレを備えた1階又は移動可能な部屋の座席に割り当てられる。

(Y社からの報告に基づき大学入試センターが作成)